

名稱

ヲ給シテ、勞ヲ慰スルモノアリ、或ハ之ヲ小晝飯トモ、小晝トモ云フ、佛家ニハ之ヲ點心、又ハ茶、子ト稱ス、又夕食ノ後ニ食スルモノヲ、夜食トモ、夜長トモ云フ、長夜ノ饑ヲ醫センガ爲ニ之ヲ食スレバナリ、

〔類聚名義抄八食ハ飲ハ食ハサケノミイヒクヒテ〕

〔伊呂波字類抄遠疊字〕飲食

〔日本書紀神代一〕一書曰、大國主神、亦名大物主神、亦號國作大己貴命、○中初大己貴神之平國也、行到

出雲國五十狹狹之小汀、而且當飲食、

〔日本書紀神代二〕一書曰、○中皇孫因謂大山祇神曰、吾見汝之女子、欲以爲妻、於是大山祇神乃使二女

持モトリ百ヒヤク机ツク飲ヘモ食シ奉ホウ進シン、

〔日本靈異記中〕孤孃憑敬觀音銅像、示奇表得現報、緣第卅四

有隣富家乳母、大櫃具納百味、飲食、美味芬馥、無不具物、

〔空穂物語後陸二〕ちいさき子のふかき雪をわけて、あし手はえびのやうにて、はしりくるをみる

に、いとかなしくてなみだをながして、などかくさむきにいで、ありくぞか、らざらんおりに、

で、ありけとなげばくるしうもあらずおもとを思ふとて、とまるべくもあらず、ありつるいと

をとほみつれど、百味をそなへたる飲食になりぬ、あやしうたへなる事おほかり、

〔類聚名義抄八食ハ食ハ會ハ通ハ正ハ音ハ蝕ハ和ハ自ハキハケハヒハモハノハクハラハフハ又ハ音ハ自ハク

〔伊呂波字類抄久飲ハ食ハ食ハ糧ハクハヒハモハノ

〔運歩色葉集志〕食物

〔易林本節用集久食ハ服ハ羞ハ也ハ食ハ也ハ膳ハ也

〔倭訓栞中編六〕くひもの 食物の義、今音にもいへり、西土も同じ、